

## 「放課後と夏休み等の過ごししかた調査」調査結果

### 1 調査の概要

#### (1) 目的

県内の公立小学校に通う児童の放課後や夏休み等の過ごししかたの現状やニーズを把握・分析し、県や市町村における今後の児童福祉行政の一層の推進に役立てる。

#### (2) 調査対象

県内公立小学校（義務教育学校を含む）に通う1年生及び4年生の児童の保護者

#### (3) 調査期間

令和6年9月18日（水）から令和6年10月29日（火）まで

※当初は令和6年10月15日（火）までとしていたが上記期間まで延長した。

#### (4) 回答方法

インターネット（埼玉県電子申請・届出サービス）により回答

#### (5) 回答者数

##### 【回答者数（学年別）】（Q1-4<単数>）

	n	（回答率）	【参考】児童数 （R6.5.1）
小学校1年生	14,669	（26.7%）	54,882
小学校4年生	14,004	（23.8%）	58,941
<合計>	28,673	（25.2%）	113,823

※児童数（R6.5.1）は令和6年度学校基本調査より

※小学校1年生には義務教育学校1年生を、小学校4年生には義務教育学校4年生を含む

##### 【回答者数（児童との続柄別）】（Q1-1<単数>）

	n	（割合）
父	1,921	（ 6.7%）
母	26,700	（ 93.1%）
その他	52	（ 0.2%）
<合計>	28,673	（100.0%）

※その他…祖父母、兄弟姉妹、施設職員等、里親、親戚など

【居住自治体（市町村別）】（Q1-2<単数>）

市町村名	n	市町村名	n	市町村名	n
さいたま市	6,643	入間市	553	毛呂山町	92
川越市	1,658	朝霞市	446	越生町	25
熊谷市	695	志木市	205	滑川町	177
川口市	1,804	和光市	224	嵐山町	40
行田市	427	新座市	279	小川町	75
秩父市	268	桶川市	295	川島町	94
所沢市	1,818	久喜市	648	吉見町	65
飯能市	297	北本市	214	鳩山町	19
加須市	407	八潮市	209	ときがわ町	32
本庄市	303	富士見市	454	横瀬町	27
東松山市	597	三郷市	153	皆野町	18
春日部市	793	蓮田市	242	長瀬町	12
狭山市	332	坂戸市	503	小鹿野町	35
羽生市	154	幸手市	169	東秩父村	6
鴻巣市	589	鶴ヶ島市	386	美里町	44
深谷市	536	日高市	244	神川町	9
上尾市	701	吉川市	241	上里町	112
草加市	732	ふじみ野市	383	寄居町	146
越谷市	1,379	白岡市	361	宮代町	136
蕨市	380	伊奈町	140	杉戸町	99
戸田市	313	三芳町	108	松伏町	127
				埼玉県全体	28,673

(6) 集計方法

- ・回答いただいたもののうち、非該当のものを除いて集計している場合がある。
- ・ただし、集計方法について個別に集計方法を設けた場合には、注を付し、その方法に基づいて集計を行った。
- ・また、割合については、原則、四捨五入としていることから合計が100.0%とならない場合がある。

## 2 調査結果

### 保護者・同居者等について

#### (1) 保護者・同居者等の状況の調査結果の概要

##### ア 児童との同居状況 (Q2-1<複数>)

	n	(割合)
父 (同居)	26,467	( 92.3%)
母 (同居)	27,641	( 96.4%)
兄・姉 (同居)	12,943	( 45.1%)
弟・妹 (同居)	12,577	( 43.9%)
祖父母 (同居)	2,832	( 9.9%)
その他 (同居)	463	( 1.6%)
<合計>	28,673	(100.0%)

##### イ 父 (同居) の状況

###### 【父 (同居) の年齢】 (Q2-2<単数>)

	n	(割合)
～19 歳	3	( 0.0%)
20～24 歳	4	( 0.0%)
25～29 歳	211	( 0.7%)
30～34 歳	1,740	( 6.1%)
35～39 歳	6,747	( 23.5%)
40～44 歳	8,798	( 30.7%)
45～49 歳	5,986	( 20.9%)
50～54 歳	2,410	( 8.4%)
55 歳～	570	( 2.0%)
同居なし	2,204	( 7.7%)
<合計>	28,673	(100.0%)

###### 【父 (同居) の主たる状況】 (Q2-3<単数>)

	n	(割合)
就労 (仕事を) している	26,206	( 99.0%)
求職活動中	38	( 0.1%)

就学（通学）している	6	（ 0.0%）
病気や障害があり、就労（求職活動含む）や就学をしていない	53	（ 0.2%）
家族等の看護や介護をしていて、就労（求職活動含む）や就学をしていない	6	（ 0.0%）
在宅（上記の理由以外）	81	（ 0.3%）
その他	79	（ 0.3%）
<合計>	26,469	（100.0%）

「その他」の主な内容

- ・ 単身赴任、長期出張
- ・ 自営業、個人事業主
- ・ 育児休業中、休職中            など

#### 【父（同居）の勤務形態】（Q2-4<単数>）

- ・ 父（同居）の主たる状況で「就労（仕事を）している」と回答した方（n=26,206）に対して、勤務形態を調査した。

	n	（割合）
正社員	20,519	（ 78.3%）
公務員	2,604	（ 9.9%）
パート・アルバイト	123	（ 0.5%）
非常勤・臨時職員	38	（ 0.1%）
派遣社員	87	（ 0.3%）
内職	3	（ 0.0%）
自営（居宅内）	533	（ 2.0%）
自営（居宅外）	2,068	（ 7.9%）
上記以外	231	（ 0.9%）
<合計>	26,206	（100.0%）

#### 【父（同居）の出勤時間】（Q2-5<単数>）

- ・ 父（同居）の主たる状況で「就労（仕事を）している」と回答した方（n=26,206）に対して、出勤時間を調査した。

	n	（割合）
午前6時以前	3,075	（ 11.7%）

午前6時01分から午前7時の間	5,954	( 22.7%)
午前7時01分から午前7時30分の間	5,406	( 20.6%)
午前7時31分から午前8時の間	4,622	( 17.6%)
午前8時01分以降	4,431	( 16.9%)
時間は決まっていない	2,718	( 10.4%)
<合計>	26,206	(100.0%)

## ウ 母（同居）の状況

### 【母（同居）の年齢】（Q2-6<単数>）

	n	(割合)
～19歳	4	( 0.0%)
20～24歳	11	( 0.0%)
25～29歳	451	( 1.6%)
30～34歳	2,801	( 9.8%)
35～39歳	8,569	( 29.9%)
40～44歳	9,749	( 34.0%)
45～49歳	5,112	( 17.8%)
50～54歳	904	( 3.2%)
55歳～	40	( 0.1%)
同居なし	1,032	( 3.6%)
<合計>	28,673	(100.0%)

### 【母（同居）の主たる状況】（Q2-7<単数>）

	n	(割合)
就労（仕事を）している	20,363	( 73.7%)
求職活動中	763	( 2.8%)
就学（通学）している	51	( 0.2%)
病気や障害があり、就労（求職活動含む）や就学をしていない	330	( 1.2%)
家族等の看護や介護をしていて、就労（求職活動含む）や就学をしていない	243	( 0.9%)
在宅（上記の理由以外）	4,289	( 15.5%)
その他	1,602	( 5.8%)
<合計>	27,641	(100.0%)

「その他」の主な内容

- ・在宅（専業主婦）
- ・育児休業中、休職中
- ・自営業、個人事業主 など

【母（同居）の勤務形態】（Q2-8<単数>）

・母（同居）の主たる状況で「就労（仕事を）している」と回答した方（n=20,363）  
に対して、勤務形態を調査した。

	n	(割合)
正社員	6,820	( 33.5%)
公務員	1,281	( 6.3%)
パート・アルバイト	9,908	( 48.7%)
非常勤・臨時職員	469	( 2.3%)
派遣社員	469	( 2.3%)
内職	59	( 0.3%)
自営（居宅内）	601	( 3.0%)
自営（居宅外）	480	( 2.4%)
上記以外	276	( 1.4%)
<合計>	20,363	(100.0%)

【母（同居）の出勤時間】（Q2-9<単数>）

・母（同居）の主たる状況で「就労（仕事を）している」と回答した方（n=20,363）  
に対して、出勤時間を調査した。

	n	(割合)
午前6時以前	122	( 0.6%)
午前6時01分から午前7時の間	579	( 2.8%)
午前7時01分から午前7時30分の間	1,883	( 9.2%)
午前7時31分から午前8時の間	5,201	( 25.5%)
午前8時01分以降	11,064	( 54.3%)
時間は決まっていない	1,514	( 7.4%)
<合計>	20,363	(100.0%)

## エ 兄・姉（同居）の状況

### 【兄・姉（同居）の主たる状況】（Q2-10＜複数＞）

	n	(割合)
就学（通学）をしている	12,696	( 98.1%)
就労（仕事を）している	284	( 2.2%)
求職活動中	41	( 0.3%)
病気や障害がある	98	( 0.8%)
家族等の看護や介護をしている	2	( 0.0%)
在宅（上記の理由以外）	49	( 0.4%)
その他	121	( 0.9%)
<合計>	12,943	(100.0%)

「その他」の主な内容

・就学（通信制高校や不登校を含む） など

### 【兄・姉（同居）の学年】（Q2-11＜複数＞）

・兄・姉（同居）の主たる状況で「就学（通学）をしている」と回答した方（n=12,696）  
に対して、学年を調査した。

	n	(割合)
小学1年生	204	( 1.6%)
小学2年生	407	( 3.2%)
小学3年生	1,988	( 15.7%)
小学4年生	1,833	( 14.4%)
小学5年生	1,610	( 12.7%)
小学6年生	2,522	( 19.9%)
中学生	4,756	( 37.5%)
高校生以上	2,005	( 15.8%)
<合計>	12,696	(100.0%)

## オ 祖父母（同居）の状況

### 【祖父母（同居）の主たる状況】（Q2-12＜複数＞）

	n	(割合)
就労（仕事を）している	1,377	( 48.6%)
求職活動中	9	( 0.3%)
就学（通学）している	0	( 0.0%)
病気や障害がある（入院中を含む）	271	( 9.6%)
家族等の看護や介護をしている	99	( 3.5%)
在宅（上記の理由以外）	1,291	( 45.6%)
その他	231	( 8.2%)
<合計>	2,832	(100.0%)

「その他」の主な内容

- ・在宅
- ・自営業、農業 など

#### カ その他（同居）の状況

【その他（同居）の主たる状況】（Q2-13<複数>）

	n	(割合)
就労（仕事を）している	312	( 67.4%)
求職活動中	12	( 2.6%)
就学（通学）している	34	( 7.3%)
病気や障害がある（入院中を含む）	31	( 6.7%)
家族等の看護や介護をしている	4	( 0.9%)
在宅（上記の理由以外）	85	( 18.4%)
その他	43	( 9.3%)
<合計>	463	(100.0%)

「その他」の主な内容

- ・状況が明確ではないもの
- ・在宅、未就学 など

#### (2) 結果（保護者・同居者の状況）について（有識者より）

<保護者・同居者の状況について>

- ・本調査におけるひとり親家庭の状況は、母親が同居し父親が同居していない家庭が 2,071 人（7.2%）、父親が同居し母親が同居していない家庭が 899 人（3.1%）であった（No.2-1）。
- ・令和 2 年総務省「国勢調査」において、埼玉県におけるひとり親の世帯のうち 9 割が母子家庭であったことを鑑みると、本調査においては父親が同居し母親が同居していない家庭の割合が比較的高いことが特徴として挙げられる。
- ・父（同居）の勤務形態（No.2-4）と母（同居）の勤務形態（No.2-8）を比較した場合に、父（同居）の最も多い回答が「正社員」（78.3%）であるのに対し、母（同居）の最も多い回答が「パート・アルバイト」（34.6%）であった。
- ・父（同居）の出勤時間（No.2-5）は午前 8 時までが 72.6%であるのに対し、母（同居）の出勤時間（No.2-9）は午前 8 時までが 38.1%であった。特に母（同居）のうち、「パート・アルバイト」の場合のほとんどは「午前 8 時 0 1 分以降」（75.1%）であり、母親が朝の登校時間に合わせて勤務時間や勤務形態を選択していると思われる状況が本調査から見てとれる。
- ・女性の社会進出やキャリアの継続を支援する施策を検討するにあたってはこうした状況を踏まえる必要がある。
- ・一方で「こどもが小学校に通う間は朝見送りたい」と希望する保護者も一定数いることから、こうした保護者のキャリア形成を継続していくには、企業は在宅勤務や勤務時間の短縮など従業員の柔軟な働き方を進めていく必要がある。

## 同居者以外の状況と預かりについて

### (1) 同居者以外の状況と預かりの調査結果の概要について

【同居者以外の預かり状況】(No.3-1<複数>、No.3-2～No.3-6<単数>)

預かり可能な者	n	(割合)	ほぼ毎日	週3～4日	週1～2日	必要な時(※)
父(別居)	580	(2.0%)	33	29	136	382
母(別居)	998	(3.5%)	66	48	195	689
児童の兄・姉(別居)	209	(0.7%)	12	3	41	153
祖父母(別居)	12,412	(43.3%)	1,057	816	2,569	7,970
その他(別居)	1,673	(5.8%)	71	45	258	1,299
いない	14,583	(50.9%)	-	-	-	-

※保護者等が病気や出張等により一時的に保育ができない場合のみ

### (2) 結果(同居者以外の預かり状況)について(有識者より)

#### <同居者以外の預かり状況について>

- ・同居者以外で預かりが可能なのは祖父母(別居)(43.3%)であったが、一方で「預かってもらえる人はいない」と回答した方が14,583(50.9%)であった。
- ・このうち、「父(同居あり)、母(同居あり)、祖父母(同居なし)」が最も多く11,499(40.1%)であり、核家族化のなかで、祖父母の支援がない状況が分かった。
- ・また、「父(同居あり)、母(同居なし)、祖父母(同居なし)」または「父(同居なし)、母(同居あり)、祖父母(同居なし)」が1,105(3.9%)であり、こうした家庭において父ないし母の負担が非常に大きいことが推察される。
- ・こうしたことから、子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)など家族以外の援助の活用をどのように進めていくかが重要となる。

## 放課後児童クラブ等の利用状況について

### (1) 放課後児童クラブ等の利用状況に関する調査結果の概要について

#### ア 令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況（Q4-1<単数>）

- ・「一度も利用（登録）申請をしていない」が最も多く、半数（55.2%）を占めた。
- ・次いで「利用（登録）している」（31.7%）、「利用（登録）していたが退所した」（11.1%）であった。
- ・一方で、入所保留（いわゆる「待機児童」）となっている場合（0.8%）や待機児童となり、その後利用申請を取り下げた場合（1.1%）もあった。

	n	(割合)
利用（登録）している	9,096	( 31.7%)
うち放課後児童健全育成事業（Q4-2）	8,969	( 31.3%)
利用申請(申込)をしているが、入所保留(いわゆる「待機児童」)となっている	242	( 0.8%)
利用申請（申込）をしたが、入所保留となり、その後利用申請を取り下げた	315	( 1.1%)
利用（登録）していたが退所した	3,197	( 11.1%)
一度も利用（登録）申請をしていない	15,823	( 55.2%)
<合計>	28,673	(100.0%)

#### イ 令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用想定（Q4-3<単数>）

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「利用（登録）している」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方（Q4-2）（n = 8,969）に対して、放課後児童クラブ（学童）の利用想定を調査した。
- ・「平日（学校課業日）」（97.8%）が最も多く、次いで「長期休業中（夏休み等）」（78.6%）、「土日」（11.5%）であった。

	n	(割合)
平日（学校課業日）	8,770	( 97.8%)
土日	1,032	( 11.5%)
長期休業中（夏休み等）	7,050	( 78.6%)
<合計>	8,969	(100.0%)

#### ウ 令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用頻度（平日）（Q4-4<単数>）

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「利用（登録）している」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方（Q4-2）で、

「平日（学校課業日）」と回答した方（n=8,770）に対して放課後児童クラブ（学童）の利用頻度（平日（学校課業日））を調査した。

- ・「週5回」（66.8%）が最も多く、次いで「週3，4回」（27.3%）、「週1，2回」（4.3%）、「ほぼ利用しない」（1.1%）、「月1，2回」（0.6%）であった。

	n	(割合)
ほぼ利用しない	93	( 1.1%)
月1，2回	52	( 0.6%)
週1，2回	380	( 4.3%)
週3，4回	2,391	( 27.3%)
週5回	5,854	( 66.8%)
<合計>	8,770	(100.0%)

エ 令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用終了時間（平日）（Q4-5<単数>）

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「利用（登録）している」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方（Q4-2）で、「平日（学校課業日）」と回答した方（n=8,770）に対して、放課後児童クラブ（学童）のお迎え時間（利用終了時間）（平日（学校課業日））を調査した。
- ・「18時まで」（59.9%）が最も多く、次いで「18時01分から18時30分まで」（25.0%）、「18時31分から19時まで」（12.9%）、「保護者等のお迎えが不要な放課後児童クラブを利用している」（1.4%）、「19時01分以降」（0.7%）であった。

	n	(割合)
18時まで	5,253	( 59.9%)
18時01分から18時30分まで	2,196	( 25.0%)
18時31分から19時まで	1,132	( 12.9%)
19時01分以降	63	( 0.7%)
保護者等のお迎えが不要な放課後児童クラブを利用している	126	( 1.4%)
<合計>	8,770	(100.0%)

オ 令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用頻度（土日）（Q4-6<単数>）

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「利用（登録）している」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方（Q4-2）で、「土日」と回答した方（n=1,032）に対して、放課後児童クラブ（学童）の利用頻度

(土日)を調査した。

- ・「月1, 2回」(45.7%)が最も多く、次いで「月3, 4回」(19.2%)、「毎週」(19.0%)、「ほぼ利用しない」(16.7%)であった。

	n	(割合)
ほぼ利用しない	172	(16.7%)
月1, 2回	472	(45.7%)
月3, 4回	198	(19.2%)
毎週	190	(19.0%)
<合計>	1,032	(100.0%)

カ 令和6年度の放課後児童クラブ(学童)の預ける時間(土日)(Q4-7<単数>)

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ(学童)の利用状況」(Q4-1)で「利用(登録)している」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方(Q4-2)で、「土日」と回答した方(n=1,032)に対して、放課後児童クラブ(学童)へ預ける時間(土日)を調査した。
- ・「8時01分から9時までに」(62.0%)が最も多く、次いで「7時01分から8時までに」(32.4%)、「9時01分以降」(4.1%)、「7時までに」(0.8%)、「保護者等の送りが不要な放課後児童クラブを利用している」(0.8%)であった。

	n	(割合)
7時までに	8	(0.8%)
7時01分から8時までに	334	(32.4%)
8時01分から9時までに	640	(62.0%)
9時01分以降	42	(4.1%)
保護者等の送りが不要な放課後児童クラブを利用している	8	(0.8%)
<合計>	1,032	(100.0%)

キ 令和6年度の放課後児童クラブ(学童)の利用終了時間(土日)(Q4-8<単数>)

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ(学童)の利用状況」(Q4-1)で「利用(登録)している」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方(Q4-2)で、「土日」と回答した方(n=1,032)に対して、放課後児童クラブ(学童)のお迎え時間(利用終了時間)(土日)を調査した。
- ・「18時まで」(68.8%)が最も多く、次いで「18時01分から18時30分まで」

(21.8%)、「18時31分から19時まで」(7.6%)、「保護者等のお迎えが不要な放課後児童クラブを利用している」(1.2%)、「19時01分以降」(0.7%)であった。

	n	(割合)
18時まで	710	(68.8%)
18時01分から18時30分まで	225	(21.8%)
18時31分から19時まで	78	(7.6%)
19時01分以降	7	(0.7%)
保護者等のお迎えが不要な放課後児童クラブを利用している	12	(1.2%)
<合計>	1,032	(100.0%)

ク 令和6年度の放課後児童クラブ(学童)の利用頻度(長期休業中(夏休み等))(Q4-9<単数>)

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ(学童)の利用状況」(Q4-1)で「利用(登録)している」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方(Q4-2)で、「長期休業中(夏休み等)」と回答した方(n=7,050)に対して、放課後児童クラブ(学童)の利用頻度(長期休業中(夏休み等))を調査した。
- ・「週5回」(62.1%)が最も多く、次いで「週3,4回」(30.2%)、「週1,2回」(4.3%)、「週6回以上」(1.7%)、「ほぼ利用しない」(0.9%)、「月1,2回」(0.8%)であった。

	n	(割合)
ほぼ利用しない	63	(0.9%)
月1,2回	53	(0.8%)
週1,2回	302	(4.3%)
週3,4回	2,130	(30.2%)
週5回	4,379	(62.1%)
週6回以上	123	(1.7%)
<合計>	7,050	(100.0%)

ケ 令和6年度の放課後児童クラブ(学童)の預ける時間(長期休業中(夏休み等))(Q4-10<単数>)

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ(学童)の利用状況」(Q4-1)で「利用(登録)している」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方(Q4-2)で、

「長期休業中（夏休み等）」と回答した方（n=7,050）に対して、放課後児童クラブ（学童）へ預ける時間（長期休業中（夏休み等））を調査した。

- ・「8時01分から9時までに」（62.0%）が最も多く、次いで「7時01分から8時までに」（34.6%）、「9時01分以降」（2.4%）、「保護者等の送りが不要な放課後児童クラブを利用している」（0.8%）、「7時までに」（0.3%）であった。

	n	(割合)
7時までに	21	( 0.3%)
7時01分から8時までに	2,437	( 34.6%)
8時01分から9時までに	4,368	( 62.0%)
9時01分以降	171	( 2.4%)
保護者等の送りが不要な放課後児童クラブを利用している	53	( 0.8%)
<合計>	7,050	(100.0%)

コ 令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用終了時間（長期休業中（夏休み等））（Q4-11<単数>）

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「利用（登録）している」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方（Q4-2）で、「長期休業中（夏休み等）」と回答した方（n=7,050）に対して、放課後児童クラブ（学童）のお迎え時間（利用終了時間）（長期休業中（夏休み等））を調査した。
- ・「18時まで」（61.6%）が最も多く、次いで「18時01分から18時30分まで」（24.1%）、「18時31分から19時まで」（12.2%）、「保護者等のお迎えが不要な放課後児童クラブを利用している」（1.5%）、「19時01分以降」（0.6%）であった。

	n	(割合)
18時まで	4,342	( 61.6%)
18時01分から18時30分まで	1,700	( 24.1%)
18時31分から19時まで	859	( 12.2%)
19時01分以降	41	( 0.6%)
保護者等のお迎えが不要な放課後児童クラブを利用している	108	( 1.5%)
<合計>	1,032	(100.0%)

サ 令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の主にお迎えに行く方（Q4-12<単数>）

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「利用（登録）し

ている」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方（Q4-2）（n＝8,969）に対して、主に放課後児童クラブ（学童）へお迎えに行く方を調査した。

- ・「母」（82.7％）が最も多く、次いで「父」（9.5％）、「父・母以外の親族（祖父母など）」（5.0％）、「なし（お迎えの必要がない放課後児童クラブ）」（1.7％）、「その他」（1.1％）であった。

	n	(割合)
父	848	( 9.5%)
母	7,420	( 82.7%)
父・母以外の親族（祖父母など）	451	( 5.0%)
その他	102	( 1.1%)
なし（お迎えの必要がない放課後児童クラブ）	148	( 1.7%)
<合計>	8,969	(100.0%)

「その他」の主な内容

- ・親族（児童の兄・姉など）
- ・ファミリー・サポート・センター事業活用 など

#### シ 令和6年度の放課後児童クラブ（学童）のお迎えにあたっての「勤務先」の工夫（Q4-13<複数>）

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「利用（登録）している」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方（Q4-2）（n＝8,969）に対して、放課後児童クラブ（学童）のお迎えにあたっての「勤務先」の工夫を調査した。
- ・「勤務時間を配慮してもらっている」（52.0％）が最も多く、次いで「特になし」（35.9％）、「在宅勤務を活用している」（12.7％）、「勤務地（配置先）を配慮してもらっている」（11.0％）、「その他」（3.9％）であった。

	n	(割合)
勤務地（配置先）を配慮してもらっている	989	( 11.0%)
勤務時間を配慮してもらっている	4,668	( 52.0%)
在宅勤務を活用している	1,135	( 12.7%)
その他	346	( 3.9%)
特になし	3,224	( 35.9%)
<合計>	8,969	(100.0%)

「その他」の主な内容

- ・ 転職、退職、パートタイムへの変更等
- ・ 残業をしない等の配慮、勤務日や勤務時間・営業時間の調整
- ・ フレックス勤務や在宅勤務の活用 など

ス 令和6年度の放課後児童クラブ(学童)のお迎えにあたっての「家庭内」の工夫 (Q4-14<複数>)

- ・ 「令和6年度の放課後児童クラブ(学童)の利用状況」(Q4-1)で「利用(登録)している」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方(Q4-2)(n=8,969)に対して、放課後児童クラブ(学童)のお迎えにあたっての「家庭内」の工夫を調査した。
- ・ 「お迎えする者の間で勤務時間を調整し、対応」(46.6%)が最も多く、次いで「特になし」(32.4%)、「必要に応じて祖父母など親族にお願いをしている」(23.0%)、「その他」(5.9%)、「お迎え可能な勤務先に転職」(3.5%)であった。

	n	(割合)
お迎えする者の間で勤務時間を調整し、対応	4,176	(46.6%)
必要に応じて祖父母など親族にお願いをしている	2,067	(23.0%)
お迎え可能な勤務先に転職	314	(3.5%)
その他	529	(5.9%)
特になし	2,908	(32.4%)
<合計>	8,969	(100.0%)

「その他」の主な内容

- ・ 保護者間でのお迎えの調整や兄・姉と一緒に帰宅又はお迎えの依頼
- ・ 時短勤務や勤務日、勤務時間の調整
- ・ フレックス勤務や在宅勤務の活用
- ・ お迎え可能な時間での就職 など

セ 令和6年度の放課後児童クラブ(学童)のお迎えにあたっての「その他」の工夫 (Q4-15<複数>)

- ・ 「令和6年度の放課後児童クラブ(学童)の利用状況」(Q4-1)で「利用(登録)している」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方(Q4-2)(n

=8,969) に対して、放課後児童クラブ（学童）のお迎えにあたっての「その他」の工夫を調査した。

- ・「特になし」（92.6%）が最も多く、次いで「その他」（4.2%）、「ファミリー・サポート・センター事業を活用している」（1.7%）、「親族以外（ファミリー・サポート・センター事業を除く）に依頼している」（1.7%）であった。

	n	(割合)
ファミリー・サポート・センター事業を活用している	150	( 1.7%)
親族以外（ファミリー・サポート・センター事業を除く）に依頼している	151	( 1.7%)
その他	375	( 4.2%)
特になし	8,307	( 92.6%)
<合計>	8,969	(100.0%)

「その他」の主な内容

- ・ 兄・姉と一緒に帰宅又はお迎えの依頼や親族等への依頼
- ・ 時短勤務や勤務日、勤務時間の調整
- ・ 友人や知人、近隣の方へ依頼
- ・ フレックス勤務や在宅勤務の活用 など

ソ 令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の取組状況①（宿題や学習のサポート）(Q4-16<単数>)

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「利用（登録）している」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方（Q4-2）（n = 8,969）に対して、放課後児童クラブ（学童）の取組状況①（宿題や学習のサポート）を調査した。
- ・「実施している」（71.2%）、「実施していない」（28.8%）であった。
- ・「実施している」と回答した方のうち、「今のままでよい」（76.5%）が最も多く、次いで「実施回数・時間数を増やしてほしい」（19.9%）、「どちらでもよい」（3.3%）、「実施回数・時間数を減らしてもよい」（0.3%）であった。
- ・「実施していない」と回答した方のうち、「実施してもらいたい」（63.6%）が最も多く、次いで「どちらでもよい」（29.8%）、「実施しなくてもよい」（6.5%）であった。

	n	(割合)
実施している	6,386	( 71.2%)
実施回数・時間数を増やしてほしい	1,270	< 19.9% >

今のままでよい	4,883	< 76.5% >
実施回数・時間数を減らしてもよい	20	< 0.3% >
廃止してほしい	2	< 0.0% >
どちらでもよい	211	< 3.3% >
実施していない	2,583	( 28.8%)
実施してもらいたい	1,644	< 63.6% >
実施しなくてもよい	169	< 6.5% >
どちらでもよい	770	< 29.8% >
<合計>	8,969	(100.0%)

タ 令和6年度の放課後児童クラブ(学童)の取組状況②(様々な体験活動や遊び)(Q4-17<単数>)

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ(学童)の利用状況」(Q4-1)で「利用(登録)している」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方(Q4-2)(n=8,969)に対して、放課後児童クラブ(学童)の取組状況②(様々な体験活動や遊び)を調査した。
- ・「実施している」(64.1%)、「実施していない」(35.9%)であった。
- ・「実施している」と回答した方のうち、「今のままでよい」(73.9%)が最も多く、次いで「実施回数・時間数を増やしてほしい」(19.9%)、「どちらでもよい」(5.4%)、「実施回数・時間数を減らしてもよい」(0.8%)、「廃止してほしい」(0.1%)であった。
- ・「実施していない」と回答した方のうち、「実施してもらいたい」(57.7%)が最も多く、次いで「どちらでもよい」(36.5%)、「実施しなくてもよい」(5.8%)であった。

	n	(割合)
実施している	5,753	( 64.1%)
実施回数・時間数を増やしてほしい	1,142	< 19.9% >
今のままでよい	4,252	< 73.9% >
実施回数・時間数を減らしてもよい	46	< 0.8% >
廃止してほしい	5	< 0.1% >
どちらでもよい	308	< 5.4% >
実施していない	3,216	( 35.9%)
実施してもらいたい	1,856	< 57.7% >

実施しなくてもよい	186	< 5.8%>
どちらでもよい	1,174	< 36.5%>
<合計>	8,969	(100.0%)

チ 令和6年度の放課後児童クラブ(学童)の取組状況③(こどもの日々の様子や連絡)  
(Q4-18<単数>)

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ(学童)の利用状況」(Q4-1)で「利用(登録)している」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方(Q4-2)(n=8,969)に対して、放課後児童クラブ(学童)の取組状況③(こどもの日々の様子や連絡)を調査した。
- ・「実施している」(57.5%)、「実施していない」(42.5%)であった。
- ・「実施している」と回答した方のうち、「今のままでよい」(86.2%)が最も多く、次いで「実施回数を増やしてほしい」(9.0%)、「どちらでもよい」(3.7%)、「実施回数を減らしてもよい」(1.1%)であった。
- ・「実施していない」と回答した方のうち、「どちらでもよい」(50.8%)が最も多く、次いで「実施してもらいたい」(37.2%)、「実施しなくてもよい」(12.0%)であった。

	n	(割合)
実施している	5,157	( 57.5%)
実施回数を増やしてほしい	466	< 9.0%>
今のままでよい	4,443	< 86.2%>
実施回数を減らしてもよい	55	< 1.1%>
廃止してほしい	2	< 0.0%>
どちらでもよい	191	< 3.7%>
実施していない	3,812	( 42.5%)
実施してもらいたい	1,418	< 37.2%>
実施しなくてもよい	459	< 12.0%>
どちらでもよい	1,935	< 50.8%>
<合計>	8,969	(100.0%)

ツ 令和6年度の放課後児童クラブ(学童)の取組状況④(連絡手段のICT化)(Q4-19<単数>)

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ(学童)の利用状況」(Q4-1)で「利用(登録)し

ている」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方（Q4-2）（n＝8,969）に対して、放課後児童クラブ（学童）の取組状況④（連絡手段のICT化）を調査した。

- ・「実施している」（53.0%）、「実施していない」（47.0%）であった。
- ・「実施している」と回答した方のうち、「今のままでよい」（67.7%）が最も多く、次いで「もっと進めてほしい」（27.8%）、「どちらでもよい」（4.2%）、「廃止してほしい」（0.2%）であった。
- ・「実施していない」と回答した方のうち、「実施してもらいたい」（69.8%）が最も多く、次いで「どちらでもよい」（26.2%）、「実施しなくてもよい」（4.0%）であった。

	n	(割合)
実施している	4,753	( 53.0%)
もっと進めてほしい	1,323	< 27.8% >
今のままでよい	3,219	< 67.7% >
廃止してほしい	10	< 0.2% >
どちらでもよい	201	< 4.2% >
実施していない	4,216	( 47.0%)
実施してもらいたい	2,944	< 69.8% >
実施しなくてもよい	168	< 4.0% >
どちらでもよい	1,104	< 26.2% >
<合計>	8,969	(100.0%)

テ 令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の取組内容の満足度（Q4-20<単数>）

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「利用（登録）している」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方（Q4-2）（n＝8,969）に対して、放課後児童クラブ（学童）における取組内容の満足度を調査した。
- ・「まあ満足している」（47.3%）、「満足している」（35.6%）であり、約8割の方が「満足している」と回答している。そのほか、「どちらともいえない」（11.4%）、「あまり満足していない」（4.2%）、「満足していない」（1.5%）であった。

	n	(割合)
満足している	3,195	( 35.6%)
まあ満足している	4,242	( 47.3%)

どちらともいえない	1,020	( 11.4%)
あまり満足していない	375	( 4.2%)
満足していない	137	( 1.5%)
<合計>	8,969	(100.0%)

ト 令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の今後半年以内の退所の可能性（Q4-21<単数>）

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「利用（登録）している」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方（Q4-2）（n=8,969）に対して、放課後児童クラブ（学童）の今後半年以内の退所の可能性を調査した。
- ・「退所する見込みはない」（86.4%）が最も多く、次いで「退所する可能性がある」（10.9%）、「退所予定である」（2.7%）であった。

	n	(割合)
退所する見込みはない	7,747	( 86.4%)
退所する可能性がある	982	( 10.9%)
退所予定である	240	( 2.7%)
<合計>	8,969	(100.0%)

ナ 令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の今後半年以内の退所する理由（保護者によるもの）（Q4-23<複数>）

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「利用（登録）している」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方（Q4-2）で「今後半年以内の退所の可能性」（Q4-21）について「退所する可能性がある」または「退所予定である」と回答した方（n=1,222）に対して、放課後児童クラブ（学童）の退所理由（保護者によるもの）を調査した。
- ・「その他」（24.6%）が最も多く、次いで主な理由としては「利用料金が負担だから」（23.1%）、「なし」（18.7%）、「他の方法（習い事や親族の預かり等）で対応できるから」（13.7%）、「家庭で対応ができるようになる（なった）から」（12.0%）、「送迎が負担だから」（11.0%）と続いた。

	n	(割合)
入所要件を満たさなくなる（なった）から	53	( 4.3%)

家庭で対応ができるようになる（なった）から	147	（ 12.0%）
働き方（在宅勤務や勤務地など）を変える（変えた）から	97	（ 7.9%）
家族のサポートが得られるようになる（なった）から	37	（ 3.0%）
他の方法（習い事や親族の預かり等）で対応できるから	168	（ 13.7%）
長期休業（夏休み）の預かりが終わったから	47	（ 3.8%）
保護者にとって放課後児童クラブの取組内容が魅力的ではなかったから	116	（ 9.5%）
保護者にとって施設が魅力的ではなかったから	101	（ 8.3%）
放課後児童クラブ（学童）の開所時間が短く、保護者等の勤務時間では間に合わないから	52	（ 4.3%）
利用料金が負担だから	282	（ 23.1%）
送迎が負担だから	134	（ 11.0%）
転居したから	13	（ 1.1%）
その他	301	（ 24.6%）
なし	229	（ 18.7%）
<合計>	1,222	（100.0%）

「その他」の主な内容

- ・留守番ができる、留守番を希望するようになった
- ・児童本人が放課後児童クラブを負担に感じている、本人が退所を希望している
- ・放課後児童クラブへの不信感や不満
- ・放課後児童クラブへ入れなかった、入れないと言われたから
- ・保護者会や役員など保護者の負担が大きいから
- ・高学年になったため（下校時間が遅くなり利用時間が減ったなど） など

ニ 令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の今後半年以内の退所する理由（児童によるもの）（Q4-24<複数>）

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「利用（登録）している」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方（Q4-2）で「今後半年以内の退所の可能性」（Q4-21）について「退所する可能性がある」または「退所予定である」と回答した方（n=1,222）に対して、放課後児童クラブ（学童）の退所理由（児童によるもの）を調査した。
- ・「児童がひとりで留守番できるようになったから」（46.7%）が最も多く、次いで主な理由としては「児童が放課後児童クラブへ行きたがらなくなったから」（34.2%）、「なし」（21.4%）、「仲のよい友達と遊べないから」（18.9%）、「児童にとって放課後児童クラブの取組内容が魅力的ではなかったから」（15.5%）、「その他」

(11.9%) と続いた。

	n	(割合)
児童にとって放課後児童クラブの取組内容が魅力的ではなかったから	189	( 15.5%)
児童にとって施設が魅力的ではなかったから (古い・狭い・人数が多い等)	108	( 8.8%)
仲のよい友達と遊べないから	231	( 18.9%)
児童が放課後児童クラブへ行きたがらなくなったから	418	( 34.2%)
児童が学校自体に行きたがらなくなったから	25	( 2.0%)
児童がひとりで留守番できるようになったから	571	( 46.7%)
児童が疾病等により通えなくなったから	1	( 0.1%)
配慮が特に必要な児童で対応してもらえないから	10	( 0.8%)
その他	146	( 11.9%)
なし	261	( 21.4%)
<合計>	1,222	(100.0%)

「その他」の主な内容

- ・習い事
- ・放課後児童支援員と合わない、嫌がるなど
- ・友人とのトラブル
- ・取組内容等が合わない など

又 令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の入所希望放課後児童クラブ以外への入所希望（Q4-25<単数>）

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「利用申請（申込）をしているが、入所保留（いわゆる「待機児童」）となっている」と回答した（n=242）に対して、現在入所を希望している放課後児童クラブ以外の放課後児童クラブへ入所が可能な場合、入所したいかを調査した。
- ・「できれば入所させたい」（33.1%）が最も多く、次いで「ぜひ入所を希望する」（26.9%）、「入所は希望しない」（30.2%）、「できれば入所させたくない」（9.9%）であった。

	n	(割合)
ぜひ入所を希望する	65	( 26.9%)
できれば入所させたい	80	( 33.1%)

できれば入所させたくない	24	( 9.9%)
入所は希望しない	73	( 30.2%)
<合計>	242	(100.0%)

ネ 令和6年度の放課後児童クラブ（学童）で入所保留（待機児童）となった方の入所希望放課後児童クラブ以外へ入所した場合の課題（Q4-26<複数>）

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「利用申請（申込）をしているが、入所保留（いわゆる「待機児童」）となっている」と回答した（n=242）に対して、現在入所を希望している放課後児童クラブ以外の放課後児童クラブへ入所した場合に考えられる課題を調査した。
- ・「自宅から遠くなるため送迎が負担になる（または送迎ができない）」（77.7%）が最も多く、次いで「他の小学校の児童が多いのでこどもが馴染めない可能性がある」（43.0%）、「その他」（16.5%）、「特に課題はない」（11.6%）であった。

	n	(割合)
自宅から遠くなるため送迎が負担になる（または送迎ができない）	188	( 77.7%)
他の小学校の児童が多いのでこどもが馴染めない可能性がある	104	( 43.0%)
特に課題はない	28	( 11.6%)
その他	40	( 16.5%)
<合計>	242	(100.0%)

「その他」の主な内容

- ・費用
- ・本人の負担
- ・保護者の負担（送迎等）など

ノ 令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の入所保留（待機児童）によって変更したもの（児童本人）（Q4-32<複数>）

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「利用申請（申込）をしているが、入所保留（いわゆる「待機児童」）となっている」または「利用申請（申込）をしたが、入所保留となり、その後利用申請を取り下げた」と回答した（n=557）に対して、入所保留によって変更したもの（児童本人）を調査した。
- ・「特になし」（48.1%）が最も多く、次いで「習い事を増やした（始めた）」（22.6%）、「その他」（18.5%）、「祖父母など親族宅で過ごしてもらうようにした」（16.0%）、

「放課後子供教室を利用するようにした」（3.9%）、「ファミリー・サポート・センター事業を利用し、預かってもらうようにした」（0.7%）であった。

	n	(割合)
祖父母など親族宅で過ごしてもらうようにした	89	( 16.0%)
習い事を増やした(始めた)	126	( 22.6%)
ファミリー・サポート・センター事業を利用し、預かってもらうようにした	4	( 0.7%)
放課後子供教室を利用するようにした	22	( 3.9%)
その他	103	( 18.5%)
特になし	268	( 48.1%)
<合計>	557	(100.0%)

「その他」の主な内容

- ・留守番（1人、兄弟姉妹等）
- ・民間学童を利用
- ・祖父母等が自宅に来て一緒に過ごす など

#### ハ 令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の入所保留（待機児童）によって変更したもの（保護者等）（Q4-33<複数>）

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「利用申請（申込）をしているが、入所保留（いわゆる「待機児童」）となっている」または「利用申請（申込）をしたが、入所保留となり、その後利用申請を取り下げた」と回答した（n = 557）に対して、入所保留によって変更したものの（保護者等）を調査した。
- ・「特になし」（49.4%）が最も多く、次いで「仕事」（42.4%）、「その他」（8.8%）、「住居」（0.5%）であった。

	n	(割合)
仕事	236	( 42.4%)
住居	3	( 0.5%)
その他	49	( 8.8%)
特になし	275	( 49.4%)
<合計>	557	(100.0%)

「その他」の主な内容

- ・仕事関係（勤務時間、勤務形態等の調整）
- ・家族等での対応 など

ヒ 令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の入所保留（待機児童）によって変更した「仕事」の内容（Q4-34<複数>）

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「利用申請（申込）をしているが、入所保留（いわゆる「待機児童」）となっている」または「利用申請（申込）をしたが、入所保留となり、その後利用申請を取り下げた」と回答した方に対して、入所保留によって変更したもの（保護者等）のうち「仕事」と回答した方（n=236）の内容を調査した。
- ・「（転職はせずに）勤務時間の調整をしてもらった」（60.2%）が最も多く、次いで「（転職はせずに）在宅勤務など勤務形態を調整してもらった」（17.8%）、「転職した」（14.8%）、「退職した」（8.5%）、「その他」（7.2%）、「（転職はせずに）勤務地の調整をしてもらった」（3.0%）であった。

	n	(割合)
転職した	35	( 14.8%)
（転職はせずに）勤務時間の調整をしてもらった	142	( 60.2%)
（転職はせずに）勤務地の調整をもらった	7	( 3.0%)
（転職はせずに）在宅勤務など勤務形態を調整してもらった	42	( 17.8%)
退職した	20	( 8.5%)
その他	17	( 7.2%)
<合計>	557	(100.0%)

「その他」の主な内容

- ・時間に合わせて仕事を選んだ など

フ 令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の入所保留（待機児童）によって変更した「住居」の内容（Q4-35<複数>）

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「利用申請（申込）をしているが、入所保留（いわゆる「待機児童」）となっている」または「利用申請（申込）をしたが、入所保留となり、その後利用申請を取り下げた」と回答した方に対して、入所保留によって変更したもの（保護者等）のうち「住居」と回答した方（n=3）の内容を調査した。
- ・「祖父母など親族の住居の近くへ転居した（同居も含む）」（66.7%）、「その他」（33.3%）であった。

	n	(割合)
祖父母など親族の住居の近くへ転居した(同居も含む)	2	( 66.7%)
職場の近くへ転居した	0	( 0.0%)
子育て支援の充実した場所へ転居した	0	( 0.0%)
その他	1	( 33.3%)
<合計>	3	(100.0%)

へ 令和6年度の放課後児童クラブ(学童)の入所保留(待機児童)について申請中の入所申請の取り下げの可能性(Q4-36<単数>)

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ(学童)の利用状況」(Q4-1)で「利用申請(申込)をしているが、入所保留(いわゆる「待機児童」)と回答した方(n=242)に対して、現在申請中の入所申請について、半年以内に取り下げる可能性を調査した。
- ・「取り下げる見込みはない」(60.7%)、「取り下げる可能性がある」(26.4%)、「取り下げ予定である」(12.8%)であった。

	n	(割合)
取り下げる見込みはない	147	( 60.7%)
取り下げる可能性がある	64	( 26.4%)
取り下げ予定である	31	( 12.8%)
<合計>	242	(100.0%)

ホ 令和6年度の放課後児童クラブ(学童)の入所保留(待機児童)となった後の利用申請取り下げの理由(Q4-37<複数>)

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ(学童)の利用状況」(Q4-1)で「利用申請(申込)をしているが、入所保留(いわゆる「待機児童」)となっている」いる方のうち入所申請を半年以内に「取り下げる可能性がある」「取り下げ予定である」と回答した方(Q4-36)または「利用申請(申込)をしたが、入所保留となり、その後利用申請を取り下げた」と回答した方(n=410)に対して、取り下げ理由を調査した。
- ・「児童がひとりで留守番できるようになったから」(37.3%)と最も多く、次いで主な理由は「児童が放課後児童クラブへ行きたがらないから」(20.5%)、「働き方(在宅勤務や勤務地など)を変えるから(転職・退職含む)」(20.2%)、「その他」(17.1%)、「他の方法(習い事や親族の預かり等)で対応できるから」(9.5%)であった。

	n	(割合)
入所要件を満たさなくなるから（離職や退院等）	27	( 6.6%)
家庭で対応できるようになったから（育児休業等）	23	( 5.6%)
働き方（在宅勤務や勤務地など）を変えるから（転職・退職含む）	83	( 20.2%)
家族のサポートが得られるようになるから	19	( 4.6%)
他の方法（習い事や親族の預かり等）で対応できるから	39	( 9.5%)
長期休業（夏休み）の預かりが終わったから	32	( 7.8%)
利用料金が負担だから	29	( 7.1%)
送迎が負担だから	17	( 4.1%)
転居予定だから	1	( 0.2%)
保護者にとって放課後児童クラブの取組内容が魅力的ではないから	13	( 3.2%)
保護者にとって施設が魅力的ではなかったから（古い・狭い・人数が多い等）	10	( 2.4%)
放課後児童クラブの開所時間が短く、保護者等の勤務時間では間に合わないから	9	( 2.2%)
児童にとって放課後児童クラブの取組内容が魅力的ではないから	21	( 5.1%)
児童にとって施設が魅力的ではなかったから（古い・狭い・人数が多い等）	15	( 3.7%)
児童にとって他の習い事の方がよかったから	15	( 3.7%)
仲の良い友達と遊べないから	36	( 8.8%)
児童が放課後児童クラブへ行きたがらないから	84	( 20.5%)
児童が学校自体に行きたがらなくなったから	1	( 0.2%)
児童がひとりで留守番できるようになったから	153	( 37.3%)
児童が疾病等により通えなくなったから	0	( 0.0%)
配慮が特に必要な児童で対応してもらえないから	3	( 0.7%)
その他	70	( 17.1%)
<合計>	410	(100.0%)

「その他」の主な内容

- ・入所できる見込みがないから
- ・他のサービス（民間学童等）の方がよいから
- ・入所要件を満たさないから など

マ 令和6年度の放課後児童クラブ（学童）を退所した時期（Q4-22<単数>）

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「利用（登録）していたが退所した」と回答した方（n=3,197）に対して、退所した時期を調査した。

- ・小学校1年生にもかかわらず、「1年生の4月～9月」以外を選択したもの(n=43)については調査から除外している。
- ・小学校4年生については、「3年生の10月～3月」(22.4%)と最も多く、次いで「4年生の4月以降」(20.8%)、「2年生の10月～3月」(16.0%)、「3年生の4月～9月」(14.9%)、「2年生の4月～9月」(10.5%)、「1年生の10月～3月」(8.8%)、「1年生の4月～9月」(6.5%)であった。

	【小1】		【小4】	
	n	(割合)	n	(割合)
1年生の4月～9月	349	(100.0%)	183	( 6.5%)
1年生の10月～3月	-		248	( 8.8%)
2年生の4月～9月	-		295	(10.5%)
2年生の10月～3月	-		449	(16.0%)
3年生の4月～9月	-		417	(14.9%)
3年生の10月～3月	-		629	(22.4%)
4年生の4月以降	-		584	(20.8%)
<合計>			2,805	(100.0%)

ミ 令和6年度の放課後児童クラブ(学童)を退所した理由(保護者によるもの)(Q4-23<複数>)

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ(学童)の利用状況」(Q4-1)で「利用(登録)していたが退所した」と回答した方(n=3,197)に対して、放課後児童クラブ(学童)の退所理由(保護者によるもの)を調査した。
- ・「その他」(21.7%)が最も多く、次いで主な理由としては「利用料金が負担だから」(18.9%)、「家庭で対応ができるようになる(なった)から(育児休業等)」(15.8%)、「働き方(在宅勤務や勤務地など)を変える(変えた)から(転職・退職含む)」(15.3%)、「送迎が負担だから」(13.6%)、「他の方法(習い事や親族の預かり等)で対応できるから」(11.9%)、「なし」(11.5%)と続いた。

	n	(割合)
入所要件を満たさなくなる(なった)から(離職や退院等)	212	( 6.6%)
家庭で対応ができるようになる(なった)から(育児休業等)	506	(15.8%)
働き方(在宅勤務や勤務地など)を変える(変えた)から(転職・退職含む)	489	(15.3%)
家族のサポートが得られるようになる(なった)から	181	( 5.7%)

他の方法（習い事や親族の預かり等）で対応できるから	380	（ 11.9%）
長期休業（夏休み）の預かりが終わったから	263	（ 8.2%）
保護者にとって放課後児童クラブの取組内容が魅力的ではなかったから	303	（ 9.5%）
保護者にとって施設が魅力的ではなかったから（古い・狭い・人数が多い等）	199	（ 6.2%）
放課後児童クラブ（学童）の開所時間が短く、保護者等の勤務時間では間に合わないから	156	（ 4.9%）
利用料金が負担だから	604	（ 18.9%）
送迎が負担だから	436	（ 13.6%）
転居したから	25	（ 0.8%）
その他	695	（ 21.7%）
なし	368	（ 11.5%）
<合計>	3,197	（100.0%）

「その他」の主な内容

- ・児童本人が放課後児童クラブを負担に感じている、本人が退所を希望している
- ・留守番ができる、留守番を希望するようになった
- ・放課後児童クラブへ入れなかった、入れないと言われたから
- ・放課後児童クラブへの不信感や不満
- ・保護者会や役員など保護者の負担が大きいから など

ム 令和6年度の放課後児童クラブ（学童）を退所した理由（児童本人によるもの）（Q4-24<複数>）

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「利用（登録）していたが退所した」と回答した方（n=3,197）に対して、放課後児童クラブ（学童）の退所理由（保護者によるもの）を調査した。
- ・「児童がひとりで留守番できるようになったから」（44.1%）が最も多く、次いで主な理由としては「児童が放課後児童クラブへ行きたがらなくなったから」（41.9%）、「なし」（20.1%）、「仲のよい友達と遊べないから」（18.9%）、「児童にとって放課後児童クラブの取組内容が魅力的ではなかったから」（18.9%）、「その他」（10.4%）と続いた。

	n	（割合）
児童にとって放課後児童クラブの取組内容が魅力的ではなかったから	603	（ 18.9%）
児童にとって施設が魅力的ではなかったから（古い・狭い・人数が多い等）	292	（ 9.1%）
仲のよい友達と遊べないから	603	（ 18.9%）

児童が放課後児童クラブへ行きたがらなくなったから	1,340	( 41.9%)
児童が学校自体に行きたがらなくなったから	82	( 2.6%)
児童がひとりで留守番できるようになったから	1,410	( 44.1%)
児童が疾病等により通えなくなったから	9	( 0.3%)
配慮が特に必要な児童で対応してもらえないから	32	( 1.0%)
その他	334	( 10.4%)
なし	641	( 20.1%)
<合計>	3,197	(100.0%)

「その他」の主な内容

- ・放課後児童支援員と合わない、嫌がるなど
- ・友人とのトラブル
- ・習い事
- ・留守番が可能となった など

メ 令和6年度の放課後児童クラブ（学童）に一度も利用（登録）申請をしていない方の利用要件（Q4-27<単数>）

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「一度も利用（登録）申請をしていない」と回答した方（n=15,823）に対して、放課後児童クラブの利用要件を満たしているかを調査した。
- ・「分からない」（53.0%）、「満たしていない」（33.9%）、「満たしている」（13.1%）であった。

	n	(割合)
満たしている	2,068	( 13.1%)
満たしていない	5,368	( 33.9%)
分からない	8,387	( 53.0%)
<合計>	15,823	(100.0%)

モ 令和6年度の放課後児童クラブ（学童）に一度も利用（登録）申請をしていない方の就労等希望（Q4-28<単数>）

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「一度も利用（登録）申請をしていない」と回答した方のうち「放課後児童クラブの利用要件」（Q4-27）で「満たしていない」と回答した方（n=5,368）に対して、就労等の希望を調

査した。

- ・「ない」(66.9%)が最も多く、次いで「就労(仕事)のために希望する」(30.2%)、「その他」(2.7%)、「就学(通学)のために希望する」(0.3%)であった。

	n	(割合)
就労(仕事)のために希望する	1,619	( 30.2%)
就学(通学)のために希望する	14	( 0.3%)
その他	143	( 2.7%)
ない	3,592	( 66.9%)
<合計>	5,368	(100.0%)

「その他」の主な内容

- ・一時的な利用
- ・長期休業中のみの利用
- ・友人関係や遊びの場としての利用
- ・就労や復職のため など

#### ヤ 令和6年度の放課後児童クラブ(学童)に一度も利用(登録)申請をしていない方の未申請(登録)理由(Q4-29<複数>)

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ(学童)の利用状況」(Q4-1)で「一度も利用(登録)申請をしていない」と回答した方のうち「放課後児童クラブの利用要件」(Q4-27)で「満たしている」と回答した方(n=2,068)に対して、放課後児童クラブへの利用(登録)申請を行っていない理由を調査した。
- ・「利用料金が負担だから」(27.9%)が最も多く、次いで主な理由として「児童一人で家で留守番ができるから」(24.2%)、「他の方法(習い事や親族の預かり等)で対応できるから」(22.8%)、「その他」(20.8%)、「送迎が負担だから」(20.0%)、「働き方(在宅勤務や勤務地など)を変えたから(転職を含む)」(17.6%)、「児童が放課後児童クラブへ行きたがらないから」(15.9%)であった。

	n	(割合)
保護者にとって放課後児童クラブの取組内容が魅力的ではなかったから	265	( 12.8%)
保護者にとって施設が魅力的ではなかったから(古い・狭い・人数が多い等)	219	( 10.6%)
利用料金が負担だから	576	( 27.9%)
送迎が負担だから	414	( 20.0%)

働き方（在宅勤務や勤務地など）を変えたから（転職を含む）	365	（ 17.6%）
他の方法（習い事や親族の預かり等）で対応できるから	471	（ 22.8%）
入所の倍率が高く、入所は難しいと思われるから	211	（ 10.2%）
申請方法が分からないから	27	（ 1.3%）
児童一人で家で留守番ができるから	500	（ 24.2%）
児童にとって放課後児童クラブの取組内容が魅力的ではないから	191	（ 9.2%）
児童にとって施設が魅力的ではなかったから（古い・狭い・人数が多い等）	131	（ 6.3%）
他の習い事の方がよいから	127	（ 6.1%）
仲のよい友達と遊べないから	148	（ 7.2%）
児童が放課後児童クラブへ行きたがらないから	328	（ 15.9%）
児童が学校自体に行きたがらないから	15	（ 0.7%）
児童が疾病等により通えないから	10	（ 0.5%）
配慮が特に必要な児童で対応してもらえないから	33	（ 1.6%）
その他	430	（ 20.8%）
<合計>	2,068	（100.0%）

「その他」の主な内容

- ・他の方法等で対応可能
- ・家庭での対応が可能（自営業や在宅勤務、育児休業中など）
- ・保護者負担（役員や送迎、利用料金など）
- ・お迎えの時間に間に合わない
- ・入所できない（過去できなかった、入所倍率が高いなど）
- ・支援員（合わない、対応が悪いなど） など

ユ 平日の放課後の過ごし方（Q4-30<複数>）

- ・対象者全て（n=28,673）に対して、平日の放課後の1週間の平均的な過ごし方を調査した。
- ・放課後児童クラブに入所している場合は、放課後児童クラブに行かない日の過ごし方について回答している。

	n	月1～ 2回	月3～ 4回	週1～ 2回	週3～ 4回	週5日
保護者（成人の同居者を含む）と一緒に自宅で過ごしている	19,686	1,640	901	3,196	3,479	10,652
保護者（成人の同居者を含む）は不在だが児童の兄・姉と一緒に自宅で過ごしている	2,559	570	227	827	492	443

保護者（成人の同居者を含む）は不在だが児童の弟・妹と一緒に自宅で過ごしている	786	189	63	240	133	161
保護者（成人の同居者を含む）や児童の兄・姉、弟・妹は不在で、児童一人が自宅で過ごしている	2,334	332	191	717	648	446
祖父母など親族宅で過ごしている	2,027	498	209	520	320	480
習い事（塾等）に行っている	11,281	538	695	5,683	3,746	619
ファミリー・サポート・センター事業による預かりを利用している	45	16	5	16	7	1
放課後子供教室を利用している	517	112	101	193	61	50
児童の友人宅で過ごしている	2,032	724	345	848	110	5
友人と公園や児童館などで遊んでいる	7,098	1,298	876	3,338	1,364	222
放課後等デイサービスを利用している	658	28	30	249	206	145
その他	859	123	68	271	225	172
上記に当てはまらず、原則として週5日放課後児童クラブに通っている	3,224	-	-	-	-	3,224

「その他」の主な内容

- ・ 祖父母が自宅に来て一緒に過ごしている
- ・ 保護者等が職場や在宅勤務等で一緒に過ごしている など

ヨ 長期休業中（夏休み等）の過ごし方（Q4-31＜複数＞）

- ・ 対象者全て（n=28,673）に対して、長期休業中（夏休み等）の1週間の平均的な過ごし方を調査した。
- ・ 放課後児童クラブに入所している場合は、放課後児童クラブに行かない日の過ごし方について回答している。

	n	月1～ 2回	月3～ 4回	週1～ 2回	週3～ 4回	週5日
保護者（成人の同居者を含む）と一緒に自宅で過ごしている	20,633	858	1,197	3,738	3,628	11,212
保護者（成人の同居者を含む）は不在だが児童の兄・姉と一緒に自宅で過ごしている	4,120	473	313	1,249	1,328	757
保護者（成人の同居者を含む）は不在だが児童の弟・妹と一緒に自宅で過ごしている	1,134	166	94	316	340	218
保護者（成人の同居者を含む）や児童の兄・姉、弟・妹は不在で、児童一人が自宅で過ごしている	2,180	259	183	734	713	291
祖父母など親族宅で過ごしている	6,409	1,733	1,239	1,686	951	800
習い事（塾等）に行っている	8,433	298	558	3,964	2,983	630
ファミリー・サポート・センター事業による預かりを利用している	39	9	4	12	11	3
放課後子供教室を利用している	223	28	19	45	77	54

児童の友人宅で過ごしている	1,876	830	416	548	74	8
友人と公園や児童館などで遊んでいる	4,448	1,222	891	1,677	539	119
放課後等デイサービスを利用している	672	33	36	232	221	150
その他	1,324	181	139	346	353	305
上記に当てはまらず、原則として週5日放課後児童クラブに通ってる	3,257	-	-	-	-	3,257

「その他」の主な内容

- ・民間学童等を利用
- ・保護者等と一緒に自宅で過ごしている
- ・祖父母が自宅に来て一緒に過ごしている
- ・保護者不在で一人で過ごす
- ・夏休み等のイベントに参加している など

(2) 結果（放課後児童クラブ等の利用状況）について（有識者より）

<長期休業中（夏休み等）のみの利用について>

- ・放課後児童クラブ（学童）の待機児童については、長期休業（夏休み）が明けた10月時点で、年度当初5月と比較すると半減するとのことであるが、実際に放課後児童クラブ（学童）を利用している家庭で長期休業中（夏休み等）の利用のみを想定している家庭は191（2.1%）にとどまり、平日（学校授業日）のみの利用を想定している家庭が1,747（19.5%）と比較しても割合は低かった。
- ・長期休業中（夏休み等）のみの利用を想定している家庭は放課後児童クラブ（学童）の利用ができておらず、いわゆる待機児童となっている可能性が高いものと推測できる。
- ・長期休業中（夏休み等）のみの利用を想定し、既に放課後児童クラブ（学童）において、長期休業中（夏休み等）のみ支援単位を増やす場合には運営費に別途補助がされている。
- ・また、放課後児童健全育成事業ではないが放課後居場所緊急対策事業により、児童館や公民館、小学校など既存の社会資源を活用したこどもたちの安全・安心な居場所を提供する事業も実施している。
- ・こうした補助金の活用や事業のより一層の推進を図っていく必要がある。

<放課後児童クラブの取組状況について>

- ・放課後児童クラブ（学童）の取組として「①宿題や学習のサポート」、「②様々な体験

活動や遊び]、「③こどもの日々の様子の連絡]、「④連絡手段のICT化」の現状とニーズを調査した。(Q4-16~Q4-19)

- ・4項目を比較した結果、実施している取組として、「①宿題や学習のサポート」(71.2%)で最も高く、次いで「②様々な体験活動や遊び」(64.1%)、「③こどもの日々の様子の連絡」(57.5%)であり、「④連絡手段のICT化」(53.0%)が最も低かった。
- ・実施していない場合のニーズ(実施してもらいたい)については、「④連絡手段のICT化」(69.8%)が最も高く、次いで「①宿題や学習のサポート」(63.6%)、「②様々な体験活動や遊び」(57.7%)であり、「③こどもの日々の様子の連絡」(37.2%)が最も低かった。
- ・放課後児童クラブ(学童)において、連絡手段のICT化は実施している割合が低いですが家庭からのニーズは高く、企業におけるDXや小学校におけるGIGAスクールなどの状況を踏まえると放課後児童クラブ(学童)においてもICT化を一層進める必要があると思われる。
- ・放課後児童クラブ(学童)のICT化に関する補助金の活用を推進するためにも放課後児童クラブ(学童)における好事例を紹介するほか、実際に活用している現場を見学できるよう取組むことが有効であると思われる。
- ・また、宿題や学習のサポートについては、既に取り組まれている放課後児童クラブ(学童)が多く、実施されていない放課後児童クラブ(学童)でのニーズも高い。
- ・放課後児童クラブ(学童)を利用する家庭の場合、帰宅後にこどもが宿題をすると就寝時間が遅くなるなど、こどもの健全な育成に支障が出るのが想定されることから可能な範囲で放課後児童クラブ(学童)での宿題や学習のサポートの実施が望まれる。

#### <希望する放課後児童クラブ以外への入所について>

- ・いわゆる待機児童となっている児童が入所を希望する放課後児童クラブ以外への放課後児童クラブへ入所する希望(Q4-25)は60.0%([ぜひ入所を希望する](26.9%)、「できれば入所させたい」(33.1%))であったが、課題(Q4-26)としては送迎(77.7%)やこどもが馴染めるかどうか(43.0%)が挙がっていた。
- ・近年の少子化の影響で小学校の統廃合とともに放課後児童クラブも閉所し、統合する場所があると聞く。
- ・放課後児童クラブの閉所ないし統合の結果、保護者の送迎が負担または送迎ができなくなることで退所せざるをえない場合があることに留意する必要がある。

## 家庭における経済的な負担感について

ア 平日の放課後を過ごすために利用しているサービスと費用・負担感 (Q5-1<複数>、Q5-2<単数>～Q5-7<単数>、Q5-8<複数>)

- ・回答者全て (n=28,673) に対して、平日の放課後を過ごすために利用しているサービスと費用及び負担感を調査した。

	n	放課後 児童クラブ	習い事 (塾等)	放課後等 デイサービス	放課後 子供教室	ファミリー・サポート ・センター事業	その他	なし
1,000 円未満	829	84	36	39	504	24	142	－
1,000 円以上 2,000 円未満	462	305	76	18	34	11	18	－
2,000 円以上 3,000 円未満	525	325	144	16	13	16	11	－
3,000 円以上 4,000 円未満	405	94	257	20	2	13	19	－
4,000 円以上 5,000 円未満	733	152	297	252	6	10	16	－
5,000 円以上 6,000 円未満	854	252	437	153	1	4	7	－
6,000 円以上 7,000 円未満	1,019	356	583	67	1	7	5	－
7,000 円以上 8,000 円未満	1,826	721	1,068	26	3	4	4	－
8,000 円以上 9,000 円未満	1,382	546	800	20	2	6	8	－
9,000 円以上 10,000 円未満	1,581	807	731	27	6	4	6	－
10,000 円以上 15,000 円未満	6,639	3,486	3,074	32	7	9	31	－
15,000 円以上 20,000 円未満	3,174	725	2,406	22	5	3	13	－
20,000 円以上 30,000 円未満	2,276	154	2,066	19	7	4	26	－
30,000 円以上	2,129	170	1,798	22	22	4	113	－
(回答数)	28,673 (100.0%)	8,177 (28.5%)	13,773 (48.0%)	733 (2.6%)	613 (2.1%)	119 (0.4%)	419 (1.5%)	6,891 (24.0%)
(負担に感じるもの)	<人数> <割合>	4,495 (55.0%)	8,367 (60.7%)	327 (44.6%)	47 (7.7%)	43 (36.1%)	152 (36.3%)	－

### 「その他」の主な内容

- ・民間学童等
- ・放課後子供教室
- ・習い事
- ・児童館、図書館、公民館、公園 など

イ 長期休業中（夏休み）を過ごすために利用しているサービスと費用・負担感（Q5-9  
 <複数>、Q5-10<単数>～Q5-15<単数>、Q5-16<複数>）

- ・回答者全て（n=28,673）に対して、長期休業中（夏休み）を過ごすために利用しているサービスと費用及び負担感を調査した。

	n	放課後 児童クラブ	習い事 (塾等)	放課後等 デイサービス	放課後 子供教室	ファミリーサポート ・センター事業	その他	なし
1,000 円未満	394	94	31	28	101	10	130	－
1,000 円以上 2,000 円未満	387	289	49	22	4	5	18	－
2,000 円以上 3,000 円未満	444	304	83	16	1	13	27	－
3,000 円以上 4,000 円未満	272	93	124	25	1	9	20	－
4,000 円以上 5,000 円未満	575	135	184	220	4	7	25	－
5,000 円以上 6,000 円未満	659	247	242	146	2	5	17	－
6,000 円以上 7,000 円未満	739	343	329	52	1	4	10	－
7,000 円以上 8,000 円未満	1,344	638	651	35	1	4	15	－
8,000 円以上 9,000 円未満	994	482	470	28	2	3	9	－
9,000 円以上 10,000 円未満	1,285	757	468	23	3	6	28	－
10,000 円以上 15,000 円未満	5,075	3,081	1,872	44	8	11	59	－
15,000 円以上 20,000 円未満	2,562	896	1,590	24	4	8	40	－
20,000 円以上 30,000 円未満	1,922	378	1,467	18	7	8	44	－
30,000 円以上	2,420	249	1,864	39	27	8	233	－
(回答数)	28,673 (100.0%)	7,986 (27.9%)	9,424 (32.9%)	720 (2.5%)	166 (0.6%)	101 (0.4%)	675 (2.4%)	12,305 (42.9%)
(負担に感じるもの)	<人数> <割合>	4,429 (55.5%)	6,021 (63.9%)	331 (46.0%)	48 (28.9%)	58 (57.4%)	345 (51.1%)	－

「その他」の主な内容

- ・民間学童等
- ・夏休み等のイベントに参加
- ・児童館、図書館、公民館、公園
- ・放課後子供教室 など

ウ 世帯収入について (Q4-28<単数>)

- ・回答者全て (n=28,673) に対して、世帯収入を調査した。
- ・回答したくない場合は、「回答しない」を選択することを可能としている。

	n	(割合)
100 万円未満	181	( 0.6%)
100 万円以上 300 万円未満	1,047	( 3.7%)
300 万円以上 500 万円未満	3,704	( 12.9%)
500 万円以上 700 万円未満	6,812	( 23.8%)
700 万円以上 1000 万円未満	7,511	( 26.2%)
1000 万円以上	4,565	( 15.9%)
回答しない	4,853	( 16.9%)

## 居住等の状況について

ア 現在の居所（住宅）に住んでいる期間と居住に至った経緯（Q7-1<単数>、Q7-2<単数>）

- ・回答者全て（n=28,673）に対して、現在の居所（住宅）に住んでいる期間と居住に至った経緯を調査した。

		1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上
児童の父母等が育った市町村だから	5,404	155	374	716	2,044	2,115
児童の父母等の親（児童の祖父母）などの親族と同居するため	1,611	67	110	197	498	739
児童の父母等の親（児童の祖父母）などの親族の近くに住むため	4,303	141	383	647	1,827	1,305
住宅事情（家賃や住宅購入費用等）が希望に叶うから	5,787	284	595	906	2,324	1,678
生活環境（生活のしやすさ等）が良いと思ったから	3,914	148	349	651	1,608	1,158
自然環境（自然の多さ等）が良いと思ったから	350	22	36	57	130	105
通勤通学の便や交通の便が良いと思ったから	4,106	213	403	630	1,648	1,212
子育て環境がよい（自治体の支援が充実している等）と思ったから	456	31	57	78	182	108
転勤があったから	1,434	179	325	322	470	138
家業を継ぐ必要があったから	274	9	18	30	84	133
その他	1,034	88	122	183	352	289
（回答数）	28,673 (100.0%)	1,337 (4.7%)	2,772 (9.7%)	4,417 (15.4%)	11,167 (38.9%)	8,980 (31.3%)

### 「その他」の主な内容

- ・相続や親族所有の土地、知人等の紹介
- ・通勤通学の便
- ・社宅や仕事の都合のため など

## 朝の預かりについて

### (1) 朝の預かりに関する調査結果の概要について

#### ア 平日朝の児童の登校と保護者(※)の出勤時間 (Q6-1<単数>)

- ・回答者全て (n=28,673) に対して、平日朝の児童の登校時間と保護者の出勤時間を調査した。
- ・「ほぼ毎日、児童の方が先に家を出ている」(50.4%) が最も多く、次いで「保護者がいるため、児童が最後に家を出ることはない」(26.3%)、「児童と保護者が一緒に出ることが多い」(12.7%) であった。
- ・一方で、保護者の方が先に家を出るケースも確認できた。「ほぼ毎日、保護者の方が先に家を出ている」(3.1%)、「保護者の方が先に家を出ることが多い」(1.9%)

	n	(割合)
ほぼ毎日、児童の方が先に家を出ている	14,450	( 50.4%)
児童の方が先に家を出ることが多い (保護者が先に出る時もある)	1,615	( 5.6%)
児童と保護者が一緒に出ることが多い	3,634	( 12.7%)
保護者の方が先に家を出ることが多い (児童が先に出る時もある)	553	( 1.9%)
ほぼ毎日、保護者の方が先に家を出ている	879	( 3.1%)
保護者がいるため、児童が最後に家を出ることはない	7,542	( 26.3%)
<合計>	28,673	(100.0%)

※「保護者」には成人の同居者を含む

#### イ 平日朝の児童が登校のために家を出る時間 (Q6-2<単数>)

- ・回答者全て (n=28,673) に対して、平日朝の児童の登校時間を調査した。
- ・「午前7時31分から午前8時の間」(71.4%) が最も多く、次いで「午前7時01分から午前7時30分の間」(24.9%) であった。

	n	(割合)
午前6時以前	2	( 0.0%)
午前6時01分から午前7時の間	156	( 0.5%)
午前7時01分から午前7時30分の間	7,136	( 24.9%)
午前7時31分から午前8時の間	20,481	( 71.4%)
午前8時01分以降	870	( 3.0%)
時間は決まっていない	28	( 0.1%)
<合計>	28,673	(100.0%)

ウ 平日朝の児童の登校時間に合わせて変更したもの（Q6-3<複数>）

- ・回答者全て（n=28,673）に対して、平日朝の児童の登校時間に合わせて変更したものを調査した。
- ・「特になし」（76.7%）で最も多かった。
- ・変更したもののうち、最も多かったものは「仕事」（21.1%）であり、次いで「住居」（1.4%）であった。

	n	(割合)
仕事	6,047	( 21.1%)
住居	391	( 1.4%)
その他	448	( 1.6%)
特になし	21,995	( 76.7%)
<全体>	28,673	(100.0%)

「その他」の主な内容

- ・仕事関係（勤務時間や在宅勤務等の活用、勤務内容の変更、こどもの時間に合わせた就労、そもそも就労をあきらめている など）
- ・祖父母等の協力 など

エ 平日朝の児童の登校時間に合わせて「仕事」を変更した場合の内容（Q6-4<複数>）

- ・「平日朝の児童の登校時間に合わせて変更したもの」（Q6-3）で「仕事」と回答した方（n=6,047）に対して変更した内容を調査した。
- ・その結果、「（転職はせずに）勤務時間の調整をもらった」（53.5%）が最も多く、続いて「転職した」（31.1%）、「退職した」（5.8%）であった。

	n	(割合)	<回答全体比>
転職した	1,880	( 31.1%)	< 6.6% >
（転職はせずに）勤務時間の調整をもらった	3,237	( 53.5%)	<11.3% >
（転職はせずに）勤務地の調整をもらった	275	( 4.5%)	< 1.0% >
（転職はせずに）在宅勤務など勤務形態を調整をもらった	699	( 11.6%)	< 2.4% >
退職した	353	( 5.8%)	< 1.2% >
その他	340	( 5.6%)	< 1.2% >
<全体>	6,047	(100.0%)	<28,673 >

「その他」の主な内容

- ・時間に合わせて仕事を選んだ（勤務時間や勤務形態（在宅勤務）などの条件）
- ・自営業（起業）とした
- ・年次休暇や育児休業の延長などで対応している

オ 平日朝の児童の登校時間に合わせて「住居」を変更した場合の内容（Q6-5<複数>）

- ・「平日朝の児童の登校時間に合わせて変更したもの」（Q6-3）で「住居」と回答した方（n=391）に対して、変更した内容を調査した。
- ・その結果、「祖父母など親族の住居の近くへ転居した（同居も含む）」（38.4%）が最も多く、続いて「その他」（29.2%）、「職場の近くへ転居した」（27.6%）、「子育て支援の充実した場所へ転居した」（14.8%）であった。

	n	(割合)	<回答全体比>
祖父母など親族の住居の近くへ転居した（同居も含む）	150	( 38.4%)	< 0.5% >
職場の近くへ転居した	108	( 27.6%)	< 0.4% >
子育て支援の充実した場所へ転居した	58	( 14.8%)	< 0.2% >
その他	114	( 29.2%)	< 0.4% >
<全体>	391	(100.0%)	<28,673>

「その他」の主な内容

- ・学校の近くに転居した
- ・通勤・通学しやすい場所にした
- ・子育て環境（自然が多い、戸建てなど）を考慮した

カ 平日朝の児童の登校時間に合わせて「仕事」等を変更した時期（Q6-6<単数>）

- ・「平日朝の児童の登校時間に合わせて変更したもの」（Q6-3）で「仕事」「住居」「その他」と回答した方（n=6,678）に対して変更した時期を調査した。
- ・変更したものが複数ある場合には、一番初めに変更したものを選択している。
- ・その結果、「小学校入学前」（56.9%）が最も多く、続いて「小学校1年生」（28.3%）であり、小学校1年生までの間に85.2%の保護者等が「仕事」等を変更している。

	n	(割合)	<回答全体比>
小学校入学前	3,803	( 56.9%)	<13.3% >
小学校1年生	1,892	( 28.3%)	< 6.6% >
小学校2年生	302	( 4.5%)	< 1.1% >

小学校3年生	373	( 5.6%)	< 1.3% >
小学校4年生	308	( 4.6%)	< 1.1% >
<全体>	6,678	(100.0%)	<28,673>

#### キ 平日朝、児童を一人で家に残しておくことへの不安 (Q6-7<複数>)

- ・回答者全て (n=28,673) に対して、平日朝、児童を一人で家に残しておくことへの不安を調査した。
- ・「不審者や交通事故など防犯の面で不安がある」(85.2%) で最も多く、続いて「戸締りや火の始末など防災の面で不安がある」(84.0%)、「学校に遅刻しないか、忘れ物をしないか不安である」(42.2%)、「朝食をきちんと食べたか不安がある」(20.8%)、「特に不安がない」(5.1%)、「その他」(5.1%) であった。

	n	(割合)
戸締りや火の始末など防災の面で不安がある	24,080	( 84.0%)
不審者や交通事故など防犯の面で不安がある	24,428	( 85.2%)
学校に遅刻しないか、忘れ物をしないか不安がある	12,091	( 42.2%)
朝食をきちんと食べたか不安がある	5,950	( 20.8%)
特に不安はない	1,455	( 5.1%)
その他	1,461	( 5.1%)
<全体>	28,673	(100.0%)

#### 「その他」の主な内容

- ・災害や怪我、犯罪、トラブル、急な体調不良、兄弟姉妹とのけんかなど急な事態に対応できるか不安
- ・児童本人の情緒面（不安やさみしさなど）への不安
- ・児童本人の生活面（生活リズム、友人関係、動画過多など）の不安
- ・そもそも一人で家に残さない など

#### ク 平日朝、児童を預かる場所の利用希望 (Q6-8<単数>)

- ・回答者全て (n=28,673) に対して、平日朝、児童を預かる場所の利用希望を調査した。
- ・「利用希望はない」(78.4%) で最も多かった。
- ・一方で、「学校敷地内であれば利用したい」(19.1%)、「学校敷地外でも利用したい」(2.4%) であり、朝の児童の預かり場所を希望は 21.6% であった。

	n	(割合)
学校敷地内にあれば利用したい	5,489	( 19.1%)
学校敷地外でも利用したい	695	( 2.4%)
利用希望はない	22,489	( 78.4%)
<全体>	28,673	(100.0%)

#### ケ 平日朝、児童を預かる場所を利用希望する場合の利用開始希望時間 (Q6-9<単数>)

- ・「平日朝、児童を預かる場所の利用希望」(Q6-8)で「学校敷地内にあれば利用したい」「学校敷地外でも利用したい」と回答した方(n=6,184)に対して、利用開始希望時間を調査した。
- ・最も多い時間は「午前7時01分以降」(75.6%)であり、続いて「午前6時01分～午前7時」(23.1%)、「午前6時以前」(1.3%)であった。

	n	(割合)
午前6時以前	82	( 1.3%)
午前6時01分～午前7時	1,429	( 23.1%)
午前7時01分以降	4,673	( 75.6%)
<全体>	6,184	(100.0%)

#### コ 平日朝、児童を預かる場所を利用希望する場合の希望活動内容 (Q6-10<単数>)

- ・「平日朝、児童を預かる場所の利用希望」(Q6-8)で「学校敷地内にあれば利用したい」「学校敷地外でも利用したい」と回答した方(n=6,184)に対して、希望活動内容を調査した。
- ・「預かり(見守り)だけでも預けたい」(81.3%)が最も多く、続いて「何らかの活動等があれば預けたい」(17.0%)であった。

	n	(割合)
預かり(見守り)だけでも預けたい	5,025	( 81.3%)
何らかの活動等があれば預けたい	1,051	( 17.0%)
その他	108	( 1.7%)
<全体>	6,184	(100.0%)

「その他」の主な内容

- ・朝食の提供、朝食の持ち込み
- ・宿題や学習の支援、自習や読書の環境整備 など

- ・また、「何らかの活動等があれば預かりたい」と回答した方（n=1,051）に対して、具体的な活動内容を調査した結果は以下のとおりとなった。<複数>

	n	(割合)
宿題の支援や学習のサポート	762	( 72.5%)
運動の実施	743	( 70.7%)
体験活動の実施	567	( 53.9%)
朝食の提供	279	( 26.5%)
その他	12	( 1.1%)
<全体>	1,051	(100.0%)

#### サ 平日朝、児童を預かる場所を利用希望する場合の妥当な料金（Q6-11<単数>）

- ・「平日朝、児童を預かる場所の利用希望」（Q6-8）で「学校敷地内であれば利用したい」「学校敷地外でも利用したい」と回答した方（n=6,184）に対して、利用する場合の妥当な料金（1か月（20日）あたり）を調査した。
- ・最も多い時間は「月額 2,000 円（1日あたり 100 円）」（53.8%）であり、続いて「費用がかかるなら預けない」（25.9%）、「月額 6,000 円（1日あたり 300 円）」（17.4%）「月額 10,000 円（1日あたり 500 円）」（2.9%）であった。
- ・費用を負担してもよいので児童を平日の朝に預かってもらいたい保護者等は 74.1%であった。

	n	(割合)
費用がかかるなら預けない	1,599	( 25.9%)
月額 2,000 円（1日あたり 100 円）	3,327	( 53.8%)
月額 6,000 円（1日あたり 300 円）	1,077	( 17.4%)
月額 10,000 円（1日あたり 500 円）	181	( 2.9%)
<全体>	6,184	(100.0%)

#### (2) 結果（朝の預かり）について（有識者より）

##### <「朝の小1の壁」について>

- ・かつて大きな課題となっていた保育所等の待機児童数は大幅に減少しており、近年は未就学児を育てていても就労を続ける環境が整ってきていると言える。
- ・一方で、こどもが小学校に入学すると、一般的に、これまでの保育所等の朝の預かり開始時間より遅い時間に登校することになり、保護者は登校時間よりも遅い時間に出

- 勤できるよう転職や退職、正社員からパートタイムへの変更などを余儀なくされる。
- ・この状況は「朝の小1の壁」と報道されており、近年大きな課題になりつつある。
  - ・「朝の小1の壁」はどのようなものなのか、これまで調査がされてきておらず、実態が把握されていなかったが、今回の調査により実態が把握できたことは非常に意味のある調査である。
  - ・具体的には、「平日朝の児童の登校時間に合わせて変更したもの」（Q6-3）で「仕事」と回答した方が21.1%いることが判明した。
  - ・そのうち、「転職した」は31.1%、「退職した」は5.8%である一方、「(転職をせずに)勤務時間の調整をしてもらった」が53.5%であるなど、勤務先に調整をしてもらっている現状も把握ができた。
  - ・また、「平日朝の児童の登校時間に合わせて『仕事』等を変更した時期」（Q6-6）では「小学校入学前」が56.9%であり、半数以上の保護者等はこどもが小学校に入学する前に就労等を変更していることが分かった。
  - ・このことを踏まえると、「朝の小1の壁」に対応するためには、小学校入学前から取組を行う必要があると言える。

#### <「朝の児童の預かり」について>

- ・本調査では「朝の小1の壁」に対応するため、「朝の児童の預かり」のニーズも調査している。
- ・具体的には「平日朝、児童を預かる場所の利用希望」（Q6-8）で、「学校敷地内であれば利用したい」「学校敷地外でも利用したい」のいずれかを回答した方が21.6%であり、回答者のうち約5人に1人は平日の朝の児童を預かる場所の利用を希望していることが判明した。
- ・市区町村別では、人口の多い政令指定都市や中核市などで利用希望者数が多い一方、利用希望率（回答者数に占める利用希望者数）は必ずしも人口の多い都市部だけではないことが読み取れる。
- ・そうしたことから、「朝の児童の預かり」については、都内への通勤者が多い都市部に限らず、町村部でも検討する必要があると思われる。
- ・「朝の児童の預かり」については、他の自治体での実施事例はあるが、まだ埼玉県内の市町村では実施されていない。
- ・まずは「朝の児童の預かり」を始め、安定的に運営ができるようになってから預かりの際の活動内容を検討することが保護者のニーズとも合致すると思われる。（Q6-10）
- ・一方で、「朝の児童の預かり」の中で、朝食の提供を行うことができれば、こどもの貧

困対策として効果があると思われる。

- ・加えて、友人と食事を共にするという経験をとおして、人間関係の構築やコミュニケーション能力の向上も図ることができることから、活動内容についても今後検討していく必要はある。

## 長期休業中（夏休み等）の預かりについて

### （１）長期休業中（夏休み等）の預かりに関する調査結果の概要について

#### ア 長期休業中（夏休み等）の預かりの希望（Q6-12<単数>）

- ・回答者全て（n=28,673）に対して、長期休業中（夏休み等）の預かりの希望を調査した。
- ・「長期休業中の預かりが必要（平日の預かりも必要）」（50.7%）が最も多く、次いで「長期休業中の預かりは不要（平日の預かりも不要）」（36.5%）、「長期休業中の預かりが必要（平日の預かりは不要）」（9.1%）、「長期休業中の預かりは不要（平日の預かりは必要）」（3.8%）であった。

	n	(割合)
長期休業中の預かりが必要（平日の預かりも必要）	14,536	( 50.7%)
長期休業中の預かりが必要（平日の預かりは不要）	2,596	( 9.1%)
長期休業中の預かりは不要（平日の預かりは必要）	1,081	( 3.8%)
長期休業中の預かりは不要（平日の預かりも不要）	10,460	( 36.5%)
<合計>	28,673	(100.0%)

#### イ 長期休業中（夏休み等）の昼食の弁当の購入の可否（Q6-13<単数>）

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「利用（登録）している」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方（Q4-2）（n=8,969）に対して、放課後児童クラブ（学童）での長期休業中（夏休み等）の昼食の弁当の購入の可否を調査した。
- ・「できる」（56.3%）、「できない」（43.7%）であった。

	n	(割合)
できる	5,047	( 56.3%)
できない	3,922	( 43.7%)
<合計>	8,969	(100.0%)

#### ウ 長期休業中（夏休み等）の昼食の弁当の実際の実購入（Q6-14<単数>）

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「利用（登録）している」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方（Q4-2）で「長期休業中（夏休み等）の昼食の弁当の購入の可否」（Q6-13）について「できる」と回答した方（n=5,047）に対して、放課後児童クラブ（学童）で長期休業中（夏休み等）に実際に昼食の弁当の購入をしているか調査した。

- ・「頼んでいる」(50.3%)、「頼んでいない」(49.7%)であった。

	n	(割合)
頼んでいる	2,539	( 50.3%)
頼んでいない	2,508	( 49.7%)
<合計>	5,047	(100.0%)

#### エ 長期休業中（夏休み等）の昼食の弁当の購入理由（Q6-15<複数>）

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「利用（登録）している」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方（Q4-2）で「長期休業中（夏休み等）の昼食の弁当の購入の可否」（Q6-13）について「できる」と回答した方で、「実際の購入」（Q6-14）で「頼んでいる」と回答した方（n=2,539）に対して、放課後児童クラブ（学童）で長期休業中（夏休み等）に昼食の弁当の購入理由を調査した。
- ・「時間が節約できるから」(86.3%)が最も多く、次いで「衛生面で安心だから」(38.0%)、「栄養バランスが取れているから」(26.1%)、「費用が安いから」(14.9%)、「その他」(13.9%)、「十分な量があるから」(7.8%)であった。

	n	(割合)
時間が節約できるから	2,190	( 86.3%)
費用が安いから	378	( 14.9%)
栄養バランスが取れているから	663	( 26.1%)
衛生面で安心だから	964	( 38.0%)
十分な量があるから	197	( 7.8%)
その他	352	( 13.9%)
<合計>	2,539	(100.0%)

#### 「その他」の主な内容

- ・給食や弁当購入が必須であるため（毎日及び特定の日）
- ・児童の希望
- ・親の負担軽減 など

#### オ 長期休業中（夏休み等）の昼食の弁当を購入しない理由（Q6-16<複数>）

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「利用（登録）している」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方（Q4-2）で

「長期休業中（夏休み等）の昼食の弁当の購入の可否」（Q6-13）について「できる」と回答した方で、「実際の購入」（Q6-14）で「頼んでいない」と回答した方（n=2,508）に対して、放課後児童クラブ（学童）で長期休業中（夏休み等）に昼食の弁当を購入しない理由を調査した。

- ・「費用がかかる（高い）から」（50.8%）が最も多く、次いで「その他」（45.0%）、「量が調整できないから」（29.7%）、「発注の手間がかかるから」（20.7%）、「栄養バランスが取れていないから」（8.0%）、「衛生面で不安だから」（3.3%）、「食物アレルギーが不安だから」（3.1%）であった。

	n	(割合)
発注の手間がかかるから	519	( 20.7%)
費用がかかる（高い）から	1,274	( 50.8%)
栄養バランスが取れていないから	200	( 8.0%)
衛生面で不安だから	82	( 3.3%)
食物アレルギーが不安だから	78	( 3.1%)
量が調整できないから	744	( 29.7%)
その他	1,129	( 45.0%)
<合計>	2,534	(100.0%)

「その他」の主な内容

- ・児童が購入する弁当を希望しないため
- ・弁当を作れるから、弁当を作りたいから
- ・発注の時期が早い、キャンセルができない
- ・メニューに課題がある（食材、味付け、内容、添加物、栄養面など） など

#### カ 長期休業中（夏休み等）の昼食の弁当の購入希望（Q6-17<単数>）

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「利用（登録）している」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方（Q4-2）で「長期休業中（夏休み等）の昼食の弁当の購入の可否」（Q6-13）について「できない」と回答した方（n=3,922）に対して、放課後児童クラブ（学童）で長期休業中（夏休み等）に昼食の弁当の購入希望を調査した。
- ・「利用したい」（87.8%）、「利用しない」（12.2%）であった。

	n	(割合)
利用したい	3,443	( 87.8%)

利用しない	479	( 12.2%)
<合計>	3,922	(100.0%)

#### キ 長期休業中（夏休み等）の昼食の弁当の購入希望の理由（Q6-18<複数>）

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「利用（登録）している」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方（Q4-2）で「長期休業中（夏休み等）の昼食の弁当の購入の可否」（Q6-13）について「できない」と回答した方で、「購入希望」（Q6-17）で「利用したい」と回答した方（n=3,443）に対して、放課後児童クラブ（学童）で長期休業中（夏休み等）に昼食の弁当の購入希望の理由を調査した。
- ・「時間の節約ができそうだから」（87.4%）が最も多く、次いで「衛生面で安心だから」（58.8%）、「栄養バランスが取れそうだから」（46.4%）、「費用の節約ができそうだから」（8.9%）、「その他」（6.1%）であった。

	n	(割合)
時間の節約ができそうだから	3,009	( 87.4%)
費用の節約ができそうだから	305	( 8.9%)
栄養バランスが取れそうだから	1,598	( 46.4%)
衛生面で安心だから	2,026	( 58.8%)
その他	209	( 6.1%)
<合計>	3,443	(100.0%)

#### 「その他」の主な内容

- ・保護者の負担軽減（時間や精神面など）
- ・衛生面
- ・食育的観点から など

#### ク 長期休業中（夏休み等）の昼食の弁当の購入希望金額（Q6-19<複数>）

- ・「令和6年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「利用（登録）している」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方（Q4-2）で長期休業中（夏休み等）の昼食の弁当の購入の可否（Q6-13）について「できない」と回答した方で、「購入希望」（Q6-17）で「利用したい」と回答した方のうち「理由」（Q6-18）で「費用の節約ができそうだから」と回答した方（n=305）に対して、放課後児童クラブ（学童）で長期休業中（夏休み等）に昼食の弁当の購入希望金額を調査した。

- ・「301 円以上 500 円以下」(54.8%) が最も多く、次いで「301 円以下」(38.4%)、「501 円以上 700 円以下」(6.6%)、「701 円以上」(0.3%) であった。

	n	(割合)
300 円以下	117	( 38.4%)
301 円以上 500 円以下	167	( 54.8%)
501 円以上 700 円以下	20	( 6.6%)
701 円以上	1	( 0.3%)
<合計>	305	(100.0%)

#### ケ 長期休業中（夏休み等）の昼食の弁当の購入希望しない理由（Q6-20<複数>）

- ・「令和 6 年度の放課後児童クラブ（学童）の利用状況」（Q4-1）で「利用（登録）している」と回答した方のうち放課後児童健全育成事業を利用している方（Q4-2）で「長期休業中（夏休み等）の昼食の弁当の購入の可否」（Q6-13）について「できない」と回答した方で、「購入希望」（Q6-17）で「利用しない」と回答した方（n=479）に対して、放課後児童クラブ（学童）で長期休業中（夏休み等）に昼食の弁当の購入希望しない理由を調査した。
- ・「費用がかかる（高い）から」（56.8%）が最も多く、次いで「その他」（40.3%）、「発注の手間がかかるから」（15.0%）、「栄養バランスが取れていないから」（12.3%）、「衛生面が不安だから」（8.4%）、「食物アレルギーが不安だから」（6.1%）であった。

	n	(割合)
発注の手間がかかるから	72	( 15.0%)
費用がかかる（高い）から	272	( 56.8%)
栄養バランスが取れていないから	59	( 12.3%)
衛生面で不安だから	40	( 8.4%)
食物アレルギーが不安だから	29	( 6.1%)
その他	193	( 40.3%)
<合計>	479	(100.0%)

#### 「その他」の主な内容

- ・児童が購入する弁当を希望しないため
- ・弁当を作れるから、弁当を作りたいから
- ・給食サービスがあるから
- ・メニューに課題がある（食材、味付け、内容、添加物、栄養面など） など

## (2) 結果（長期休業中（夏休み等）の預かり）について（有識者より）

- ・長期休業中（夏休み等）の預かりについては、平日の放課後と異なり、保護者には昼食の準備を求められる場合がある。
- ・放課後児童クラブ（学童）を利用する保護者にとっては朝、出勤前に弁当を作るなどの手間があり、弁当の購入ができることは時間の節約のほか、心理的なプレッシャーを軽減する効果がある。
- ・一方で、発注するのに手間がかかる、費用がかかる（高い）、栄養バランスが取れていない（メニューに課題があるなど）の課題も見受けられることから、こうした課題を解決するために施策を検討する余地があるものとする。

### 調査の活用について

- ・回答者数が約 28,000 件で回答率が約 25%（Q1-4）と非常に多くの回答が得られたと言え、埼玉県内の状況を詳細に分析することが可能となると考える。
- ・調査結果を広く活用できるようにするとともに利用方法について今後検討してもらいたい。
- ・利用方法については埼玉県教育委員会で実施する「埼玉県学力・学習状況調査」のデータ提供方法等を参考にするとよい。